

がん治療に関わる医療従事者の育成を目指して
－アイン薬局西新宿店の取り組み 西新宿・がん治療研究会－(第五報)

畔柳 裕一¹⁾、亀谷 奈広¹⁾、友清 えりか¹⁾、島津 真衣¹⁾、石黒 貴子²⁾、前田 守³⁾、
長谷川 佳孝³⁾、月岡 良太³⁾、森澤 あずさ³⁾、大石 美也³⁾

1) 株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 西新宿店

2) 株式会社アインファーマシーズ

3) 株式会社アインホールディングス

【目的】アイン薬局西新宿店では、がん薬物治療に関わる薬剤師の育成を目的として2014年6月に研究会を立ち上げ、薬局薬剤師の育成を行っている。本研究では、昨年度から開始している在宅時の経口抗がん剤服用患者の服薬状況および体調を確認するための服薬フォローアップ(以下、服薬-FU)の実施状況を調査し、薬局薬剤師による在宅時のフォローが経口抗がん剤治療に及ぼす影響について検証した。

【方法】2019年2月～5月の4か月間、当薬局に来局した経口抗がん剤服用患者に対して、服薬-FUの希望を確認し、希望者には服薬-FUを行った。また、服薬-FU希望の有無で服薬-FU希望者と服薬-FU非希望者に分け、服薬指導時と服薬-FUの際、疑義照会および服薬情報提供文書を用いた医師へのフィードバック、受診勧奨、OTC薬の提案等の薬学的介入の実施状況について比較した。本研究は、アイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0024)。

【結果】調査期間中に来局した対象患者104名のうち、服薬-FUを希望した患者は41名(39.4%)で、実施された服薬-FUは43件であった。そのうち、副作用悪化防止に向けた薬学的介入を実施した事例は2件(4.7%)であった。

【考察】本研究より、経口抗がん剤服用患者の約4割が服薬-FUを希望しており、服薬-FUで薬学的介入が必要と判断した事例も見られたことから、薬局薬剤師による服薬-FUは、外来での抗がん剤治療における副作用の早期発見と早期対応に貢献できる可能性が示唆された。今後も外来での抗がん剤治療患者に対して、安全かつ効果的な外来がん薬物療法の提供に貢献するため、服薬指導だけでなく在宅時でも積極的なフォローができる薬局薬剤師の育成に努めていきたい。

(第30回医療薬学会年会(2020年10月, Web開催)にて発表, 一部要約)